

原田吉之助氏を偲んで

元シグマ委員会委員長・主査をなされていた原田吉之助氏は1990年2月9日心不全のため永眠されました。2月11日に行われた告別式では、更田豊治郎氏（原研）と山崎敏光氏（東大核研）が弔辞を読まれました。御遺族ならびに更田、山崎両氏の御承諾を得て、ここに御二人の弔辞を掲載し、ありし日の原田氏を偲ぶとともに御冥福をお祈りする次第です。

（核データニュース編集委員会）

謹んで原田吉之助さんの御霊前に告別の辞を捧げます。

一昨年十一月十四日に急病で入院されました後あなたの不屈の精神力とご家族のご看病のかいあって昨年十二月三日に退院され頂いた年賀状などのご様子から一層快方に向っておられるものとばかり思っておりましたところ、突然の訃報に接したただ茫然自失耳を疑う思いでした。ご遺族の皆様方のお悲しみはいかばかりかと誠に哀惜の念に堪えません。ご無沙汰を重ねましたことを申しわけなく存じておりますが、手術に成功されてご令嬢が付き添っておられた所へ私が参りました折直ちに私を認めて頂いた時のあなたのおだやかなご表情が思い出されます。再びあなたと言葉をかわすことかなわず、今ここにこの様にしてお別れを申し上げねばならないとは誠に痛恨の極みであります。

顧みますれば、あなたは立教大学大学院博士課程を修了されて昭和三十二年四月に草創期の日本原子力研究所に入所されました。さらに昭和三十八年には東京工業大学より理学博士号を取得されて、以来、原子核理論の研究一筋に没頭され、アルファ崩壊の理論、核分裂の理論などにおいて、世界的な研究をされました。

二度の米国留学などを経て昭和四十七年四月には核物理第一研究室長に昇任され、その頃から当時の物理部長塚田甲子男さんと二人三脚で二十メガボルトタンデムバンデグラフ加速器建設に尽力されました。昭和五十一年六月には物理部次長に昇任され、五十二年七月にはタンデム加速器準備室長も兼務されました。タンデム加速器建家が竣工した五十三年十月三十一日から半年後の昭和五十四年四月には退職された塚田さんの後をうけて物理部長の要職につかれシグマ研究委員会委員長、国際核データ委員会の日本代表などを勤められたのであります。

タンデム加速器導入の第一功労が塚田さんで、その仕上の第一功労者が原田さんであります。タンデムというハードウェアの仕事に理論家の原田さんが実験家も及ばない手腕を発揮された

ことに、われわれは皆感銘をうけておりました。

原田さん、あなたのご功績もさることながら、印象深いのは難しい理論をあなたが判り易く説明することの巧みさです。今にして思えばあなたにもっと教わっておけばよかったと悔やまれます。

あなたは昭和六十年四月にラジオアイソトープ原子炉研修所長に就任され、昭和六十一年三月に原研を停年退職されるとともに、日本エナジー株式会社の技術本部長の要職につかれました。その新しいお仕事も好調に進めておられましたところを乞われて、昭和六十三年七月財団法人原子力データセンターの専務理事に就任され、さらに新たなお仕事に情熱を燃やされ、意欲的に仕事を進められておられた矢先に急病におそわれられたのであります。全くかけがえのない方を失った気持で一杯です。

あなたもさぞかしお心残りのことと存じますが、ご令嬢ご令息が立派に成人しておられ、あなたの最愛の奥様を守って皆様が立派に人生を歩んで行かれるものと確信できることがせめてもの慰めであります。

私たちも微力ながらできる限りのお力添えをいたしますこととお約束いたします。

今はただあなたの御霊が安らかに眠られることを衷心よりお祈りしてお別れの言葉といたします。

平成二年二月十一日

日本原子力研究所

副理事長 更 田 豊治郎

原田さん

すっかりごぶさたしているうちにこのような悲しいお別れの時が突然やってきてしまい、心が痛みます。

一昨年倒れられて以来奥様はじめ御家族の奥様の懸命の看護が実って、よくなられる日も近いのではないかと伺っておりましたのに、次の病いがとうとう原田さんの命を奪ってしまいました。原田さんと云えば、あのお元気な姿しか想像できない私どもにとりまして思いもかけないことであります。原田さんのありし日を偲び心からの悲しみの気持をささげます。

原田さんはまだお若かった時にアルファ放射能という不思議な現象を理論的に解明され、そのお仕事はすぐに海外でも注目を浴びるようになりました。原田さんはこの分野の国際的中心であるカリフォルニア大学のローレンス放射線研究所に招へいされ、1963年に御家族ともどもバークレーに渡りそこで二年間を送ることになったのです。

その一年後私も同じパークレーではじめての外国生活を始めることになりました。そんなわけで私どもはサンフランシスコ空港についたその時から原田さん御一家のお世話になり、楽しい外国生活を始めることができました。

原田さんも奥様もかなり古く見かけも悪いシボレーを運転され、V8エンジンをもつその愛車を自慢しておられました。空港への出迎えからスーパーマーケットでの買物の手ほどき、そして週末にはベイブリッジを越えてサンフランシスコのシーニックドライブなどいろいろな所へつれて行って下さいました。また理恵ちゃんとわが家の二人の男児も格好の友達となり、チルデンパークのメリーゴーラウンドへ行ったり、奥様のおいしい料理を御馳走になったり、一つの家族のように楽しい一年を送ったことを思い出します。

原田さんは私のお兄様というのがピッタリです。研究や生活のことで何でも親切に教えて下さり、何とんでも人を暖かく包みこむ人柄の大きさが魅力的でした。パッチリとした眼ざし、決してたかぶらず時としてはにかむような……私は弟分として甘えた気持になり、いつも原田さんの胸に抱かれていたのです。

アメリカから帰国されてからも時折織田暢夫先生御一家をまじえてパークレーを懐しむパーティなどもやりましたね。いろいろとつきない思い出で一杯です。

ついせんだってヴァンクーヴァーのエリック・ヴォクト所長からキチノスケはどうしているかときかれました。原田さんは世界中の学者と親しくしておられたのですね。

原田さん、健康の回復を願い再会を待ち望んでいた数多くの人々、今日は悲しみにくれてここに参りました。原田さんの暖かい眼ざしと思い出を胸に、あとに残された奥様やお子様たちのしあわせを心からお祈りしたいと思います。

原田さん、どうか安らかにやすみ下さい。

1990年2月11日

(東大核研) 山 崎 敏 光